

## ECEQ<sup>®</sup>公開保育第三者評価 報告書

一般社団法人全日本私立幼稚園幼児教育研究機構が開発した「公開保育を活用した幼児教育の質向上システム」ECEQ<sup>®</sup>の公開保育を令和7年度全日本私立幼稚園連合会第39回東北地区私立幼稚園・認定こども園研修大会岩手大会令和7年10月10日（金）『子どもに寄り添い共につくり出す遊びと環境』をテーマに実施。公開保育を行うにあたり、参加者からの評価をもらう為の「問い」を各学年毎に掲げ公開保育参観後、保育について協議を行い評価を受けた。

各学年の「問い」は以下の通り

### 〈 3 歳児 〉

**【問い】 友達同士で同じ場で遊びを楽しむ姿や気持ちを表現している場面があったら教えてください**

〈協議から〉

- ・環境設定が整えられている、異年齢児との交流が多い、子どものやってみたいを保育者が園全体として拾ってすぐに形にしている事が、子どもが嬉しさを感じたり、やりたい事があったりするのではないかと思った。
- ・やりたい事を言葉にするのが難しい子には、好きなものを見極めたり、信頼関係を作ったりする事が土台となって大切と感じた。
- ・ブロックで船を作る子とクジラを作る子が合体して1つの作品を作りみんなで遊びを広げていて楽しそうだった。また、手作り玩具の充実が遊びの充実に繋がっているように思った。
- ・遊びの中でトラブルがあった際に、保育者が一緒に遊びながら輪の中に入り友達の存在や気持ちに気付けるような声掛けをしていくのはどうか。

### 〈 4 歳児 〉

**【問い】 友達との遊びの中でイメージや目的を持って遊んでいる姿や思いが伝わらず葛藤している場面があったら教えてください。**

〈協議から〉

- ・クレープ屋さん、電車作り、蜘蛛の巣作り、粘土作りなどでイメージを持って遊んでいた。
- ・黒のスズランテープで蜘蛛の巣を表現していて、提供している素材や色も作りたい物のイメージに繋がりが膨らみます事が出来ていた。また、制作中に子ども同士の会話の中では、年長児への憧れの言葉が聞かれたり人数が2人から5人6人と増えていき、友達の輪が広がっている様子が見られた。
- ・自分達が主体となり遊びを進行、発展させ、アイデアを出し楽しそうな表情で生き生きと遊んでいた。
- ・温泉での店員さんとお客さんとのやりとりや線路で電車を走らせるなど、夢中な姿があった。子ども達同士で、ごっこ遊びの役割を決めていた。
- ・保育者や子ども達同士でのやり取りの中で、喜んでもらった経験が次の意欲や興味が高まっている。
- ・試行錯誤しながら電車を直していたり、温泉ごっこでぐりとぐらのイメージを持ちながら夢中になって遊んだりする姿が見られた。
- ・保育者や子ども達同士でのやり取りの中で、喜んでもらった経験が次の意欲や興味が高まっている。
- ・STEP2で課題としていた保育者の配置、遊びが継続できている所がとても良い。
- ・保育者と子どもの信頼関係や、心の安定で夢中になって遊ぶ事が出来ているのではないか。

## 〈 5 歳児 〉

**【問い】** 子ども達が夢中になっていたり、イメージを形にする事を楽しんだりしていたと感じられる場面があったら教えてください。

### 〈協議から〉

- ・保育者のねらい導きたい気持ちもあるが子どもの意見や姿を読み取りながら遊びを展開している所が良い所。
- ・園庭と室内を自由に行き来しながら自分の好きな所で遊んでいた。
- ・保育者が臨機応変に、子どもの姿や周りの保育者の動きを見て動いているからこそ環境設定が出来ていた。
- ・保育者が遊びに入り過ぎず、子どもとの距離感がちょうど良く、子ども達だけのやり取りでも十分に遊べていた。
- ・材料を出す時、すぐに提供するのではなく子ども達に考えさせるために材料の選択肢を出してイメージを膨らませながら遊んでいた事が良かった。
- ・活動時間や給食後など、自由に行き来できるようにしている事で自分の好きな遊びで安心して遊べる空間があるからこそ、夢中になって遊ぶ事が出来ていた。
- ・子ども同士の会話も多い事で、主体的な遊びに繋がっていた。
- ・遊びの中で、一人ひとりが主役になっていると感じる場面が沢山あった。
- ・対話を通して、遊びを得ている。そこがきっかけになり遊びが展開したり深まっている。
- ・子ども同士の関わりが多く、言葉でのやり取りや友達と考える姿が沢山見られた。
- ・遊びマップが視覚的で良かった。写真で見られる為、職員間でも遊びの状況を共有出来ているから程よく関わっているのではないか。
- ・子ども同士の関わりが多く、言葉でのやり取りや友達と考える姿が沢山見られた。
- ・保育者が程よい入り方をしている。保育者が入ると成功の方に持って行きがちだが、入らない事で失敗も学びに繋がっている。

以上、各学年の「問い」と参加者からの評価

今回、この公開保育を実施するにあたり ECEQ コーディネーターの福島めばえ幼稚園副園長伊藤ちはる先生、青森百石幼稚園園長吉田恵美先生に STEP 1 トップリーダーヒヤリング STEP2 現場の先生達との園内研修 STEP3 「問い」作り STEP 4 公開保育 STEP 5 事後研修までコーディネートしていただいた。STEP 毎に道筋を示してもらえた事で ECEQ®を活用した公開保育を行うことができた。

## 〈 公開保育を終えて 〉

公開保育に参加して下さった先生方から頂いた付箋を「子どもの姿・環境・援助」の3つに分類し、改めて自分達の保育を振り返った。その中で子どもの育ちの把握、遊びの提供など見通しを持った保育の大切さ、職員間での情報共有の工夫について再確認することができた。また、園の環境の中でマイナスに捉えがちな部分についても「できることは何か」という視点に切り替え、遊びの提供につなげていくという考えを話し合いを通して共有することができたことは大きな収穫であった。参加して下さった先生方から自分達の取り組みや子ども達の育ちを認めてもらったことは自分達にとって大きな励みとなった。今後も、この評価に満足することなく継続的な実践と保育の振り返りを重ね、園内外の研修を通して互いに学び合いながら、個々の保育の質を更に高め保育に活かしていきたい。